









# リート・ウィークリーレポート (2018/1/23)

## マーケットデータ (2018/1/19)

※リート平均配当利回りは2017年12月末時点

	リート指数		為替 (対円)		金利 (%)	リート平均配当利回り (%)
	終値	騰落率	終値	騰落率		
先進国 (含日本)	942.32	+0.1%				4.17
先進国 (除日本)	941.93	-0.2%				4.18
 日本	392.70	+2.7%			0.09	4.11
 米国	1173.78	+0.1%	米ドル	110.77 -0.3%	2.66	4.12
 カナダ	1014.95	+1.1%	カナダドル	88.61 -0.6%	2.24	5.38
 欧州 (除英国)	1221.31	+1.0%	ユーロ	135.45 -0.0%	0.57	4.00
 英国	88.25	-0.0%	英ポンド	153.48 +0.7%	1.34	3.36
 豪州	691.56	-0.5%	豪ドル	88.53 +0.7%	2.87	4.73
 シンガポール	637.42	+0.0%	シンガポールドル	83.92 +0.1%	2.13	5.25
 香港	802.69	+0.7%	香港ドル	14.17 -0.3%	2.04	3.70

(出所: S&P、ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成)

※騰落率については、原則先々週末(営業日ベース)の値を基に算出し小数点第2位を四捨五入して表示。

※【リート指数】・【リート平均配当利回り】先進国(含日本)・先進国(除日本)、日本・米国・カナダ・欧州(除英国)・英国・豪州・シンガポール・香港: S&P 先進国 REIT インデックス(円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし)、S&P 各国・地域 REIT インデックス(現地通貨ベース、配当込み、為替ヘッジなし)の値および平均配当利回り。

※【為替】NY市場終値。※【金利】各国・地域の10年国債利回り。ただし欧州(除英国)はドイツ10年国債利回りを使用。

## リート市場の動き

【直近3カ月間: 2017/10/19~2018/1/19】



【2004/3/31~2018/1/19】



※先進国(含日本)のREITインデックスのグラフデータ: S&P先進国REITインデックス(円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし)  
 ※上記は過去の実績であり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。



アセットマネジメントOne

商号等 / アセットマネジメントOne株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号  
 加入協会/ 一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会

## マーケット動向（2018/1/15～2018/1/19）

### 【日本】

J-REIT市場は上昇しました。昨年来の下落によりバリュエーションの調整が進んだことや、好調な国内株式市場に対して出遅れ感が目立っていたこと、また昨年相次ぐ自己投資口買いの発表によるガバナンスの向上が評価されたことなどから、内外機関投資家から資金が流入しました。

### 【米国】

米国リート市場は小幅に上昇しました。株式市場は堅調に推移しましたが、地区連銀経済報告（ベージュブック）で緩やかな賃金上昇が報告されたことなどをを受けて長期金利が上昇し、リート市場の上値は抑えられました。配当利回りが高く金利感応度の高いヘルスケアセクターが下落する一方、次世代通信規格「5G」投資の期待感などから通信タワーを保有する銘柄などが上昇しました。

### 【欧州】

欧州リート市場は大陸欧州市場が上昇した一方、英国市場はほぼ横ばいでした。25日に予定されているECB（欧州中央銀行）の政策委員会で現行の政策に大きな変更はないとの見方が強まり、長期金利がやや低下したことなどが好感されました。英国市場は年末にM&A（企業の合併・買収）に関連して大きく上昇した銘柄などが反落しました。

### 【豪州】

豪州リート市場は下落しました。米国の長期金利上昇と同様に、豪州の長期金利も上昇したことが嫌気されました。商品市況の下落を背景に、株式市場全体としても軟調でした。

### 【アジア】

アジアリート市場は、香港市場は上昇した一方、シンガポール市場はほぼ横ばいでした。香港市場は中国本土からの資金流入を背景に、株式市場が連日過去最高値を更新するなど好調で、リート市場も連れ高となりました。シンガポール市場は週初やや上昇する局面もありましたが、金利上昇などが重石となりました。

## トピックス

### ■ 2017年のリート市場の振り返りと今後の見通し（欧州）

2017年の欧州リート市場は政治的不透明感の後退、順調な景気拡大を背景に上昇し、米国リート市場を上回る上昇率となりました。昨年は欧州各国で選挙が行われ、年初には反EU（欧州連合）派の支持率が高まり、不透明感が強まる局面もありました。しかしながら、フランスの大統領選挙では親EU派のマクロン氏が選出されるなど大きな波乱はありませんでした。経済環境は良好であり、結果としてECBは量的緩和政策の縮小を決定しました。セクター別に見ると、欧州においてもオンラインショッピングがますます拡大し、物流施設を保有するリートなどにとっては追い風でした。一方で、小売施設を保有するリートは低調に推移しました。このような環境下、年末にかけて小売リートの大型のM&Aが相次いで発表され、やや値を戻しました。2018年も好調な経済活動が続くと予想される一方で、それに伴って上昇すると予想される長期金利の動向がリスク要因となります。不動産ファンダメンタルズは比較的好調であり、フランス、ドイツ、スペインのオフィス市場などの改善が見込まれます。

英国では、EU離脱の影響を受けやすいオフィス市場には注意が必要なものの、物流施設やヘルスケアなどEU離脱の影響から離れた銘柄には注目が集まると考えられます。

# リート・ウィークリーレポート

## 各国・地域別グラフ (2017/10/19~2018/1/19)

※各国および地域のリート指数、為替の使用データについては、P.1「マーケットデータ」の注記をご参照ください。

### 《日本》

(ポイント)

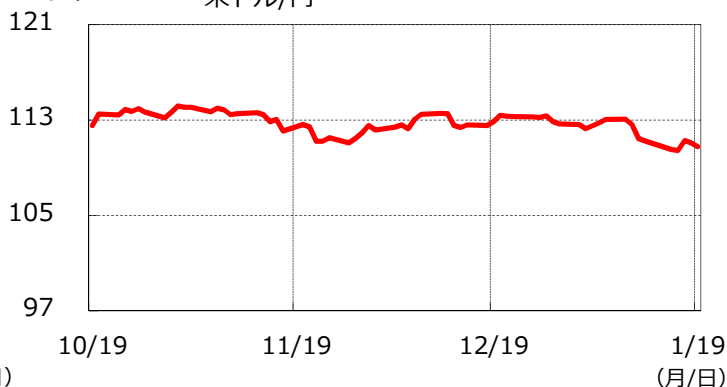


### 《米国》

(ポイント)



(円)

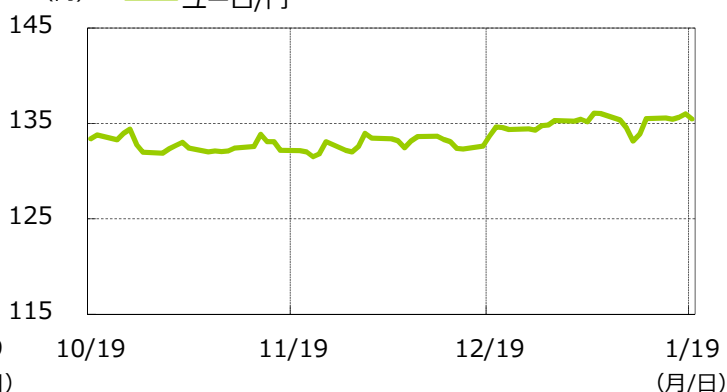


### 《欧州 (除く英国)》

(ポイント)



(円)



### 《英国》

(ポイント)



(円)

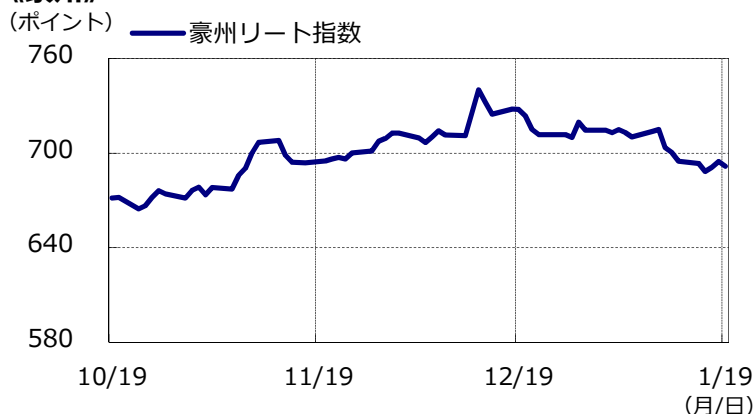


(出所：S&P、ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成)

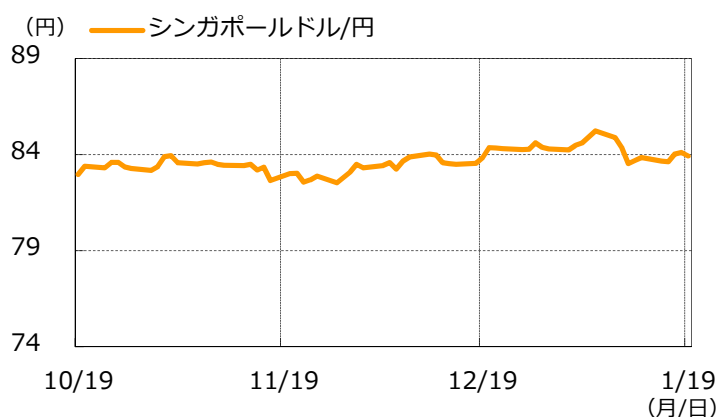
※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。  
 ※上記は過去の実績であり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。

# リート・ウィークリーレポート

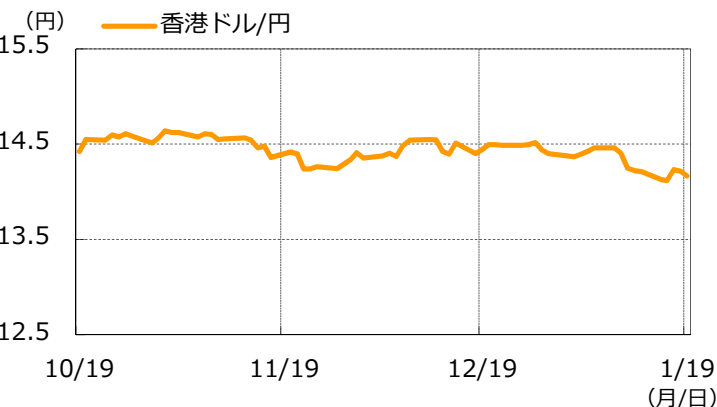
## 《豪州》



## 《シンガポール》



## 《香港》



(出所：S&P、ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成)

### 【各指数の著作権等】

■ Standard & Poor's®並びにS&P®は、スタンダード・プアーズ・ファイナンシャル・サービシーズLLC (以下「S&P」) の登録商標です。Dow Jones®は、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングズLLC (以下「ダウ・ジョーンズ」) の登録商標です。これらはS&P ダウ・ジョーンズ・インデックスLLCに対して使用許諾が与えられており、アセットマネジメントOne株式会社に対しては特定の目的のために使用するサブライセンスが与えられています。S&P 先進国 REITインデックス (円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし)、S&P 各国・地域 REIT インデックス (現地通貨ベース、配当込み、為替ヘッジなし) はS&P ダウ・ジョーンズ・インデックスLLCが所有しており、アセットマネジメントOne株式会社に対して使用許諾が与えられています。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスLLC、ダウ・ジョーンズ、S&Pおよびその関連会社は、アセットマネジメントOne株式会社の商品を支持、推奨、販売、販売促進するものではなく、また投資適合性についていかなる表明をするものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。  
 ※上記は過去の実績であり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。

# リート・ウィークリーレポート

## 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

### 【投資信託に係るリスクと費用】

#### ● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

#### ● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

##### ■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

##### ■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※ 上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となる場合があります。

### 【ご注意事項】

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

●当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

●投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。
2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。